

平成 26 年 7 月 11 日
総合政策局 公共事業企画調整課

次世代社会インフラ用ロボット「現場説明会」を開催します。

～応募者及び専門委員が各現場にて検証方法を具体化～

今般、決定した現場検証対象技術の応募者(134件の78者)向けに、各検証場所(10箇所)において「現場説明会」を開催します。

現場説明会においては、事務局より、現場検証の基本方針及び具体的方法(調査対象箇所や実施時間等)を示します。それに対し、多種多様なロボット技術の特性に応じた最適な検証とすため、産学官からなる「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会」の専門部会の委員及び応募者を交えて、意見交換を行います。

この現場説明会を踏まえ、今後、10月からの現場検証に向けて、検証方法の具体化等の準備を進めます。

【開催日程】 ※開催日程は、現場状況等により変わる可能性がありますので、適宜、[専用サイト](#)にてご確認ください。

①	7月13日	13:30-14:30	新浅川橋(東京都八王子市)	【橋梁維持管理】
②	7月18日	13:00-14:00	二ヶ領宿河原堰(川崎市多摩区)	【応急復旧】
③	7月21日	14:30-15:50	浜名大橋(浜松市・湖西市)	【橋梁維持管理】
④	7月24日	11:00-12:45	赤谷地区(奈良県五條市)	【災害調査】
⑤	7月29日	14:15-16:10	玉すだれの滝トンネル・青山トンネル(神奈川県相模原市)	【トンネル維持管理】
⑥	8月1日	9:30-10:30	多摩川[緊急用船着場](東京都大田区)	【水中維持管理】
⑦	8月1日	13:30-15:30	宮ヶ瀬ダム(神奈川県相模原市)	【水中維持管理】
⑧	8月1日	13:40-14:45	施工技術総合研究所内模擬トンネル(静岡県富士市)	【トンネル維持管理】
⑨	8月4日	14:00-16:00	桜島黒神川(鹿児島県鹿児島市)	【災害調査】
⑩	8月6日	14:00-15:20	雲仙普賢岳(長崎県南島原市)	【応急復旧】

※1 報道関係者の参加は可能です。(一般参加は不可)

参加申込等の詳細は、[当課ホームページの『ロボット現場説明会専用サイト』](#)をご覧ください。

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000029.html

(この記者発表資料には、直近の7月13日の現場説明会の案内のみ添付します。)

※2 現場検証対象技術の応募者宛には、別途、連絡しております。

【添付資料】

- 資料1-① 現場説明会(新浅川橋:八王子市)を開催します(7月13日開催 ご案内)
参考資料1 「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会」専門部会 委員名簿
参考資料2 公募概要・施策概要

問い合わせ先

次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会 事務局 稲垣、増(内24903、24921)
(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課内)

メールアドレス : robotech@mlit.go.jp 電話(課直通) : 03-5253-8286

電話(代表) : 03-5253-8111 FAX : 03-5253-1556

次世代社会インフラ用ロボット開発・導入の推進（橋梁維持管理技術）

現場説明会（新浅川橋：八王子市）を開催します

次世代社会インフラ用ロボット開発・導入の推進（橋梁維持管理技術）について、検証候補地 A：新浅川橋の現場説明会を下記のとおり実施いたします。

記

1. 実施概要

現場	日時	場所
A	平成 26 年 7 月 13 日(日) 13:30~14:30	新浅川橋 (一般国道 16 号 東京都八王子市北野町)

2. 集合場所・解散場所

当日は現地集合、現地解散とします。集合場所、交通手段については別紙-1 を参照下さい。

3. 参加申込方法

- ・現場検証対象者には、別途参加申込の案内をしておりますので、そちらに従って下さい。
- ・報道関係者の方で参加を希望される場合は、下記問い合わせ先宛てに前日までに参加登録下さい。

4. その他

- ・現場周辺には駐車場はありませんので、ご注意願います。
- ・河川敷での開催となり足元の悪い箇所もありますので、滑りにくい靴などの着用をお願いします。

なお、天候不良等で開催が困難な場合は、当日 9:00 までに(一財)橋梁調査会ホームページ

<http://www.jbec.or.jp/> のお知らせ NEWS RELEASE に掲載します。

5. 問合せ先

本件についてのお問い合わせは、下記担当者までお願いいたします。

一般社団法人 橋梁調査会 企画部 担当 吉田・藤原 TEL : 03-5940-7788

また、当日のお問い合わせは、携帯電話 吉田 080-1081-1239、藤原 090-2937-0470 へお願いします。



【集合場所】

新浅川橋左岸側高水敷内桁下付近

【交通手段】

- ・JR 中央本線「八王子」駅 徒歩約 25 分(約 2km)
- ・京王線「京王八王子」駅 "
- ・JR「八王子」駅北口バス停から京王バス「八王子車庫」
行き乗車、「あったかホール前」下車、徒歩 8 分(約 700m)



次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会 橋梁維持管理部会

部会長	藤野 陽三	横浜国立大学 特任教授
委員	油田 信一	芝浦工業大学 特任教授
	浅間 一	東京大学大学院 教授
	河西 龍彦	(一社) 日本橋梁建設協会 保全委員会幹事長
	徳光 卓	(一社) プレストレスト・コンクリート建設業協会 保全補修部会副部会長
	田中 樹由	(一社) 建設コンサルタンツ協会 道路構造物専門委員
	岩見 吉輝	国土交通省総合政策局公共事業企画調整課 施工安全企画室長
	福田 敬大	国土交通省道路局国道・防災課 道路保全企画室長
	玉越 隆史	国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部 橋梁研究室長
	石田 雅博	(独) 土木研究所 構造物メンテナンス研究センター 上席研究員
	藤野 健一	(独) 土木研究所 技術推進本部 主席研究員
	岡本 健太郎	経済産業省製造産業局産業機械課 課長補佐
	加藤 晋	(独) 産業技術総合研究所 知能システム部門 グループ長
	真野 敦史	(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 ロボット・機械システム部 主任研究員

(敬称略)

平成 26 年 7 月 8 日現在

次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会 トンネル維持管理部会

部会長	西村 和夫	首都大学東京 教授
委員	大道 武生	名城大学 教授
	永谷 圭司	東北大学大学院 准教授
	水谷 敏則	(一社) 日本トンネル技術協会 専務理事
	太田 裕之	(一社) 建設コンサルタント協会 道路専門委員会委員
	岩見 吉輝	国土交通省総合政策局公共事業企画調整課 施工安全企画室長
	福田 敬大	国土交通省道路局国道・防災課 道路保全企画室長
	間渕 利明	国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部 構造・基礎研究室長
	砂金 伸治	(独) 土木研究所 道路技術研究グループ 上席研究員
	藤野 健一	(独) 土木研究所 技術推進本部 主席研究員
	岡本 健太郎	経済産業省製造産業局産業機械課 課長補佐
	加藤 晋	(独) 産業技術総合研究所 知能システム部門 グループ長
	真野 敦史	(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 ロボット・機械システム部 主任研究員

(敬称略)

平成 26 年 7 月 8 日現在

次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会 水中維持管理部会

部会長	角 哲也	京都大学防災研究所 教授
委員	浦 環	九州工業大学 特任教授
	松野 文俊	京都大学 教授
	柏木 順	(一社) ダム・堰施設技術協会 参与
	小林 裕	(一社) 建設コンサルタント協会 ダム・発電専門委員長
	岩見 吉輝	国土交通省総合政策局公共事業企画調整課 施工安全企画室長
	若林 伸幸	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 流水管理室長
	岩田 美幸	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 河川保全企画室長
	杉原 直樹	国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部 河川構造物管理研究官
	西崎 到	(独) 土木研究所 材料資源研究グループ新材料チーム 上席研究員
	渡辺 博志	(独) 土木研究所 材料資源研究グループ基礎材料チーム 上席研究員 ((併) 構造物メンテナンス研究センター)
	藤野 健一	(独) 土木研究所 技術推進本部 主席研究員
	岡本 健太郎	経済産業省製造産業局産業機械課 課長補佐
	加藤 晋	(独) 産業技術総合研究所 知能システム部門 グループ長
	真野 敦史	(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 ロボット・機械システム部 主任研究員

(敬称略)

平成 26 年 7 月 8 日現在

次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会 災害調査部会

部会長	高橋 弘	東北大学大学院 教授
委員	油田 信一	芝浦工業大学 特任教授
	栗栖 正充	東京電機大学 教授
	大須賀 公一	大阪大学大学院 教授
	萬徳 昌昭	(一財)砂防・地すべり技術センター 企画部長
	大久保 均	(一社)建設コンサルタンツ協会 土質地質専門委員
	岩見 吉輝	国土交通省総合政策局公共事業企画調整課 施工安全企画室長
	宮武 晃司	国土交通省水管理・国土保全局防災課 防災調整官
	西井 洋史	国土交通省水管理・国土保全局砂防部保全課 保全調整官
	吉田 敏晴	国土交通省道路局国道・防災課 道路防災対策室長
	石塚 忠範	(独)土木研究所 土砂管理研究グループ 上席研究員
	藤野 健一	(独)土木研究所 技術推進本部 主席研究員
	岡本 健太郎	経済産業省製造産業局産業機械課 課長補佐
	加藤 晋	(独)産業技術総合研究所 知能システム部門 グループ長
	真野 敦史	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 ロボット・機械システム部 主任研究員
	天野 久徳	消防庁消防研究センター 特別上席研究官

(敬称略)

平成 26 年 7 月 8 日現在

次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会 応急復旧部会

部会長	建山 和由	立命館大学 教授
委員	浅間 一	東京大学大学院 工学研究科 教授
	永谷 圭司	東北大学大学院 工学研究科 准教授
	大須賀 公一	大阪大学大学院 教授
	舘岡 潤仁	(一社)日本建設業連合会 インフラ再生委員会技術部会 幹事長
	岩見 吉輝	国土交通省総合政策局公共事業企画調整課 施工安全企画室長
	宮武 晃司	国土交通省水管理・国土保全局防災課 防災調整官
	西井 洋史	国土交通省水管理・国土保全局砂防部保全課 保全調整官
	吉田 敏晴	国土交通省道路局国道・防災課 道路防災対策室長
	石塚 忠範	(独)土木研究所 土砂管理研究グループ 上席研究員
	藤野 健一	(独)土木研究所技術推進本部 主席研究員
	岡本 健太郎	経済産業省製造産業局産業機械課 課長補佐
	加藤 晋	(独)産業技術総合研究所 知能システム部門 グループ長
	真野 敦史	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 ロボット・機械システム部 主任研究員
	天野 久徳	消防庁消防研究センター 特別上席研究官

(敬称略)

平成 26 年 7 月 8 日現在

- 維持管理（橋梁、トンネル、水中）及び 災害対応（調査、応急復旧）に役立つ技術として、「現場検証・評価」の対象とする「ロボット技術・ロボットシステム」を募集
- 国土交通省の直轄現場等において、現場検証を行い、その技術の実用性等を評価し、その結果を踏まえ、活用、開発・改良を促進
- 「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会」において、現場検証及び評価を実施

【公募技術】

－対象技術の分野－

- I 『橋梁・トンネル・水中（ダム、河川）の点検』用のロボット技術・ロボットシステム
- II 『災害調査・災害応急復旧』用のロボット技術・ロボットシステム

－対象技術の実用化状況－

- a) 現場検証を通じ実用性の確認やその更なる向上が期待される実用化技術
- b) 短期（概ね3年以内）に実用化が見込まれる技術

【応募者】

- ・「個人」、「民間企業」、「大学等」

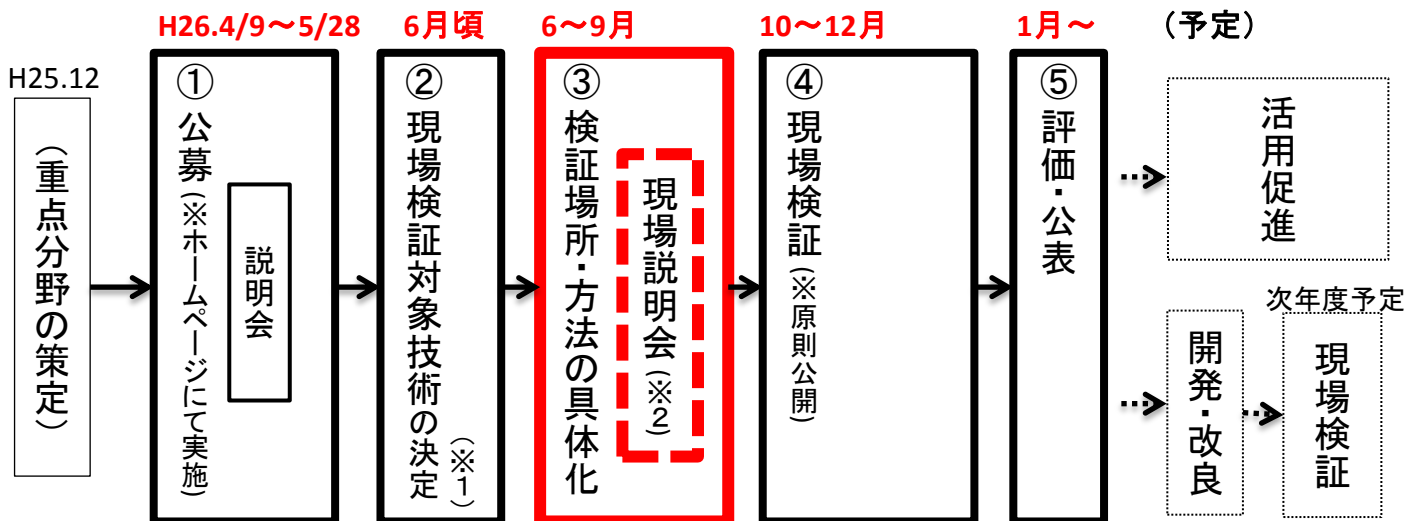
（ただし、「個人」及び「大学等」については、3年以内の実用化を目指し、民間企業と共同開発している場合に限る）

【現場検証・評価】

- ・直轄現場等において現場検証を実施（※現場検証は、原則公開）
- ・公募要領に示す「基本要件」及び「公募技術に期待する項目」の達成度、現場で把握された課題・効果、今後の発展性を評価

【その他】

・本公募と並行して、開発途上の新技術の支援策としてNEDOによる『インフラ維持管理・更新等の社会課題対応システム開発プロジェクト』を実施。（詳細は、[NEDOホームページ](#)にて）



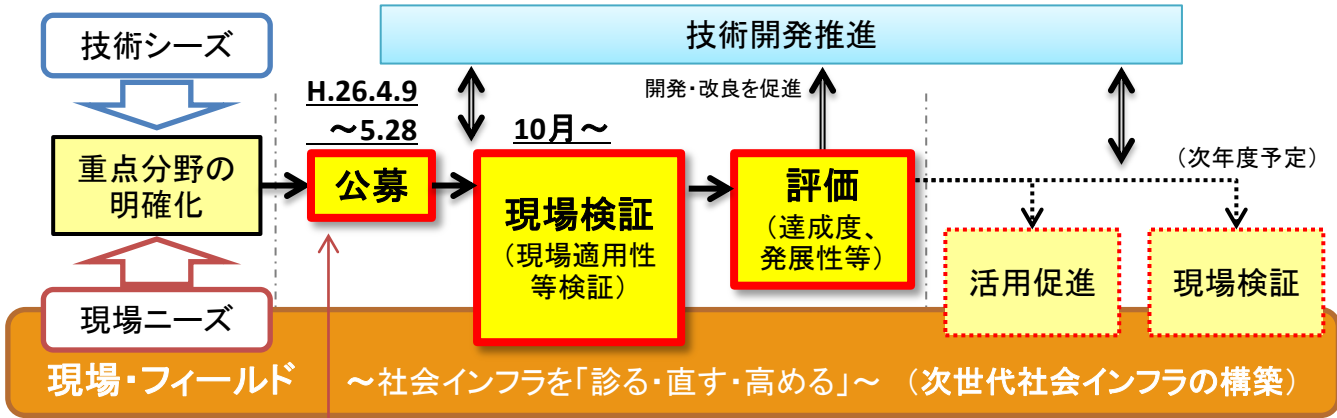
※1 現場検証対象技術の決定後、開発状況や現場状況等に因っては、現場検証・評価を、部分的に実施する、または、実施しないことがあります。

※2 現場説明会は、6月末頃予定の「現場検証対象者の決定」後に、連絡・調整を予定しています。

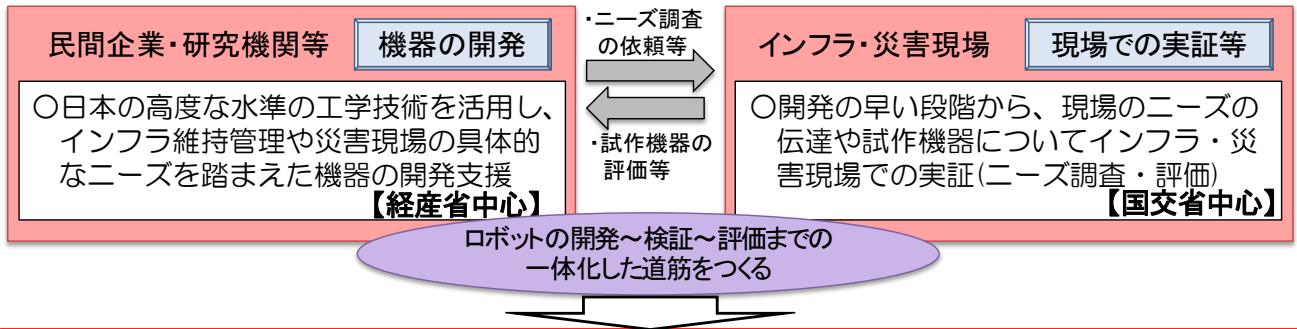
次世代社会インフラ用ロボット開発・導入__施策概要

社会インフラの現場ニーズ及びロボットの技術シーズに基づき、ロボット開発・導入すべき重点分野を明確化し、民間企業や大学等に対して公募し、現場検証を通じて、評価を行い、活用・開発を促進

※本公募と並行して、開発途上の新技術の支援策として、NEDOによる『インフラ維持管理・更新等の社会課題対応システム開発プロジェクト』を実施しております。詳しくは、NEDOホームページをご覧ください。



次世代社会インフラ用ロボット開発・導入の推進体制



次世代社会インフラ用ロボットとして、「現場検証・評価」及び「開発支援」を行う5つの重点分野とその対象技術

I 維持管理

① 橋梁

- ・近接目視を代替・支援する技術
- ・打音検査を代替・支援する技術
- ・点検者を点検箇所へ近づける技術



② トンネル

- ・近接目視を代替・支援する技術
- ・打音検査を代替・支援する技術
- ・点検者を点検箇所へ近づける技術



③ 水中(ダム、河川)

- ・近接目視を代替・支援する技術
- ・堆積物の状況を把握する技術



II 災害対応

④ 災害状況調査(土砂崩落、火山災害、トンネル崩落)

- ・災害現場の被害状況を把握する技術
- ・災害現場の土砂等の状況を計測する技術
- ・トンネル崩落現場の引火性ガス等の情報を取得する技術
- ・トンネル崩落現場の崩落状態や規模を把握する技術



⑤ 災害応急復旧(土砂崩落、火山災害)

- ・災害現場の応急復旧する技術
- ・災害現場(河道閉塞)の排水作業の応急対応する技術
- ・遠隔または自律制御にかかる情報伝達する技術

